

ちば

レジャー

街道を 行く

長狭街道⑤

水仙と桜 (鋸南町)

鴨川の金東を過ぎ、富津市の行政区域を進むと、根峠を越え、保田のある鋸南町へと入る。さらに1き以上、保田川沿いに差し掛かると、スイセンに菜の花、河津桜が競い合うように咲く光景が見られる。

源頼朝が安房に逃れた伝説から地元で「頼朝桜」と呼ばれる河津桜は今年、開花が1か月も遅れた。それを補うように、例年なら2月初めに見頃を終えるはずのスイセンが、まだぼつりぼつりと咲いている。

鋸南町は、越前、淡路島と並んで、スイセンの日本三大群生地とされる。町史によると、同町のスイセンは江戸時代に江戸屋敷や町家などに贈られ、「元名のはな」と呼ばれて珍重された。老中松平定信が寛政4年(1



佐久間ダム湖畔でも、頼朝桜(河津桜)がようやく見頃を迎えた(27日)

春告げる 水辺の競演



792年)に房総沿岸を巡視した際の紀行文にも「保田といふあたりより水仙いとおほく咲きたり」と記されている。

町は、保田中心部から1き南東部の「江戸水仙ロード」をメイン会場に、12月〜1月の開花期に合わせて水仙祭りを開き、観光誘致を進めている。古くから有名なスイセンとともに観光の目玉にしようとしているのが、街道から1.5き南側にある佐久間ダム湖と、一気に増やした河津桜だ。

ダム湖は1976年に県が着



菱川師宣誕生地を示す碑。長狭街道の終点から90歳の所にある(鋸南町保田で)

浮世絵の祖の生誕地

浮世絵の祖といわれる江戸前

工、86年に完成した。湖畔には、1500本の河津桜が植栽されている。ダム完成後の90年代にソメイヨシノが約300本植栽されたが、スイセンの開花期から2か月近い空白期間が生じることから、白羽の矢が立ったのが、早咲きで知られる河津桜だった。

町は、地域住民の協力を得て、ダム湖周辺や保田川沿いなどに、最近10年間で本家・静岡県河津町に匹敵する約1万4000本の植栽を終えた。これを2万本に増やすのが目標だ。白石治和町長(65)は「河津町からいろいろ応援していただいた。日本一の桜の里にしたい」と夢を広げる。

茎や枝に奇形ができる「てんぐ巢病」が目立ち始める中、住民有志も、季節ごとに防除のための枝切りや草刈りのボランティアを行っている。

南房総市で縫製工場を営む佐久間ダム湖観光組合の庶務担当、安崎美さん(74)は、工場従業員から「本業を忘れないで」とあきられるほど、桜の世話とPRに明け暮れている。ダム湖周辺の植栽は、地域振興につながる。頼朝桜をじっくり観賞してほしいと熱っぽく語っている。

(館山通信部・奥田誠司が担当しました。長狭街道は今回で終了。4月からは水戸街道です)

期の絵師、菱川師宣は、保田村(現鋸南町保田)の縫箔刺繍業の家に生まれた。幼い頃から絵を描くのが好きで、江戸に出て狩野派や土佐派を学び、吉原の遊女や歌舞伎役者の風俗を描いた。版画が多いが「見返り美人図」など、肉筆画も数多く残した。1985年、生誕地から1き余り南の町中央公民館の隣に菱川師宣記念館が開館。その業績や浮世絵の歴史を紹介している。開館時間は午前9時〜午後5時(月曜休館)。0470・55・4061。